インド文学史科研「映画から語るインド文学」（仮称）へのお誘い　　120519　深尾 淳一

本科研の大きな目的である新たな視点からのインド文学史の叙述をめざすために、「映画」をその一つの切り口として取り上げようということになりました。映画はきわめて大衆性の強いメディアであるということができます。そうした映画を出発点とすることで、より多くの人の関心を文学に対して引き寄せることができるのではないかと思います。

「映画から語るインド文学」とは、映画という現代的・大衆的視点から文学を照らし出す試みかと考えます。もとより、映画それ自体も、文学から大きな影響を受けていることも確かであり、文学の世界を知ることにより、より豊かな映画への理解も可能となることでしょう。

映画から文学を語るといっても、そのアプローチの仕方は無数にあることと思います。映画をどのようなかたちで扱って、どのような論考へとまとめ上げるのかについては、皆さんの自由な発想に期待しております。しかしながら、これまでの私たちの議論の中で浮かび上がってきた論点をここに列挙して、皆さんのご参考として例示いたします。

（１）映画の原作となった文学作品

映画化されたものを窓口に原作文学の世界を紹介するということも可能でしょうし、また、映画と原作の相違点を説明するという方法もあるでしょう。基本的に、原作者ごとに担当者をお願いしたいと考えています。

ショットジト=ラエ監督作品

・Bibhutibhushan Bandopadhyay 原作―担当者［　　］

「大地のうた」Pather Panchali（55）、「大河のうた」Aparajito（56）、

「大樹のうた」Apur Sansar（59）、「遠い雷鳴」Ashani Sanket（73）

・ラヴィンドラナート=タゴール原作―担当者［　　］

「Teen Kanya」（61）「チャルラータ」（チャルロタ）Charulata（64）、

「家と世界」Ghare Baire（83）、

・プレームチャンド原作―担当者［　　］

「チェスをする人」Shantranji ke Khilari（77）、「遠い道」Sadgati（81）

ヒンディー文学

・プレームチャンド原作

「Godaan」（62）

ウルドゥー文学

・Mirza Hadi Ruswa 原作―担当者［　　］

「踊り子」Umrao Jaan（81）

ベンガル文学

・シャラトチャンドラ=チャットーパディヤーイ原作―担当者［　　］

「Devdas」（35）、（56）、（02）、「デーブ D」（09）など

タミル文学

・ジャヤカーンダン原作―担当者［　　］

「Sila Nerangalil Sila Manthiragal」（75）など

・C.N.Annadurai 原作―担当者［　　］

「Velaikkari」（49）など

英語作品―担当者［　　］

「Guide」（65）原作者 R.K.ナーラーヤン

「その名にちなんで」原作者ジュンパ=ラヒリ

「English, August」原作者ウパマニュ=チャタルジー

「1947 The Earth」原作「Ice-Candy Man」バプシ=シドゥワー

「3 Idiots」原作者チェータン=バガト

（２）映画の中に垣間見られる文学的表象・モチーフ

・映画に見られる「ラーマーヤナ」、「マハーバーラタ」のモチーフ

例：「Raavan / Raavanan」（2010）、「頭目」Dalapathi（91）

・雨のシーンの表象など

・「スラムドッグ＄ミリオネア」に触れられているバクティ文学について

※皆さんの自由な発想をお願いしたいと思います。

（３）文学に関わるインドのドキュメンタリー映画

・「カビールを巡る旅」　参考：http://kabirproject.org/

・「詩聖タゴール」（監督：ショットジト=ラエ）

（４）映画と語り・演劇

・映画と民衆演劇・社会演劇との関係

例：ベンガル共産主義運動の一環としての人民劇場と映画

タミルナードゥのドラヴィダ運動の街頭での語りと映画

パールスィー劇団と映画

上記は、ほんの一例にすぎません。この新しい試みにどうか積極的にご参加いただいて、皆さんの自由なご意見・ご提案をいただけますよう、お願い申しあげます。